

## 第七回AJフォーラム（研究会） 日本の親子関係はどうなっているか？ ——中国との比較を通して

日時：2006年11月18日（土）15:00～17:30

場所：国士舘大学世田谷キャンパス 中央図書館AVホール

講師：施 利平（明治大学情報コミュニケーション学部助教授）

以前から国際結婚夫婦のコミュニケーションを研究してきましたが、それに伴い、日本の家族の形態についても深く調査するようになりました。中国や韓国の家族構成と比較しつつ、全国調査のデータに基いて、現在の日本の家族の特徴を分析していきたいと思います。

親子関係の最も大きな議論として、変容説と持続説がよく用いられます。変容説とは、日本の家族、親子関係が大きく変化したというものです。以前は顕著だった『家』というもののから核家族へ、直系家族制から夫婦家族制への移行です。大家族や三世同居の減った昨今、この家族制度の変換は正しいと捉えられています。また実際の親子関係の転換として、父系的なものから双系的なものへと変わってきた、とも言われています。もう一方の持続説では、例えば同居を取りますと、長男夫婦とがいまだ多く、昔より減ってきてはいても、次三男との同居が増えているわけでもない。また財産の相続も同居に倣い、長男が引き継ぐケースが多く、直系の家族規範に変化はないとしています。

親子関係に絡んでくる他の要因として、人口学的な転換もあげられます。以前は多産多死できょうだい数も多かったのですが、現在は少産少死できょうだい数は半分に減っています。量的な変化がある中でどのような親子関係の変化があったのか。変容説では対等性を詠っていて、きょうだい数が減るにつれ、例えば、財産相続ではひとりあたりの量が増え、親からの育児サポートも増えていくとしています。一方、持続説では、一子相続制なので、きょうだい数が減ることにより、後継ぎの問題が出てきます。息子がいればいいのですが、娘だけの場合、跡取りとして婿が欲しい。ところが男の子がひとりしかいない家では、婿には出せないわけです。この直系家族制という制度では、男子のいない家がいかに後継者を確保するかというのが切実になっています。こういったことを見ていきたいと思います。研究データは、日本家族社会学会の全国調査の結果を使用しました。分析の注目点は、対象者の世代間の違いに注目した出生コーホートの違いです。また、夫は長男か次三男か、妻に男きょうだいはいるのかといった夫婦のきょうだい属性もみています。

まず同居に関するデータを見ていきますと、全体数は確かに減ってきてはいるのですが、構造的には以前からと同じ、夫の親と同居するのは長男夫婦、そして妻の親とは次三男で妻に男きょうだいがいない夫婦が多いのです。援助に関しても、夫の親からは長男への援助が多く、妻の親からは、次三男と結婚し、男きょうだいのいない女性の夫婦に集中しています。この結果と先ほどの妻の親との同居率は同じ傾向が見られます。育児サポートも大体同じようなかたちですが、ここだけを見ますと、若いコーホートになるにつれて増えてくるのが分かります。これはきょうだい数が減ったことにより親からのサポートが全体に増えた唯一の例です。

もっと大きな視点として、その家の経済状況、居住地域などの属性を全て含んだデータ等を含んで社会学的にみることも出来ます。例えば親との同居について大きく関係しているのは、男きょうだいの数や夫の出生順であったりします。また自営業の場合は多く、企業に勤務していると少なくなる。都市規模でも違います。

これらの分析から、主に長男と同居し、援助し、育児のサポートも施しているという傾向が見えてきます。男きょうだいのいない妻の家では、姓は変えないにしても、次三男を実質的な養子にして、同居もし、経済的な援助もする。一子に引き継いでいるのですね。公平ではなく、息子がいれば長男に、そうでなければ次三男と結婚している娘のところに行っている。直系家族制度プラス養子制度が、実質的には持続しているのではないかと思います。

中国や韓国では、婿養子ではなく、父系の血筋から男子を養子として迎えます。この規範を父系とするならば、日本は非父系ではないかと考えます。

まとめますと、子供間に差はなくなり、待遇などが平均化していくという変容説は認められず、持続説が述べているように、息子がいれば息子に、長男とその他の間では長男が選択されていることが見えます。したがって、持続説を採択するのです。またきょうだい数の減少による親子関係の変化は、変容説であれば親との同居、援助、サポートが確実に増えるはずなのですが、持続説が主張しているように、一子に集中しているのが見られます。長男のいないケースでは、次三男と結婚した娘夫婦を実質的な後継者としているのです。確かにきょうだいの数は減り、同居の数も減っているのですが、直系家族制という構造は変わっていないということが、結果として述べる事ができるかと思います。